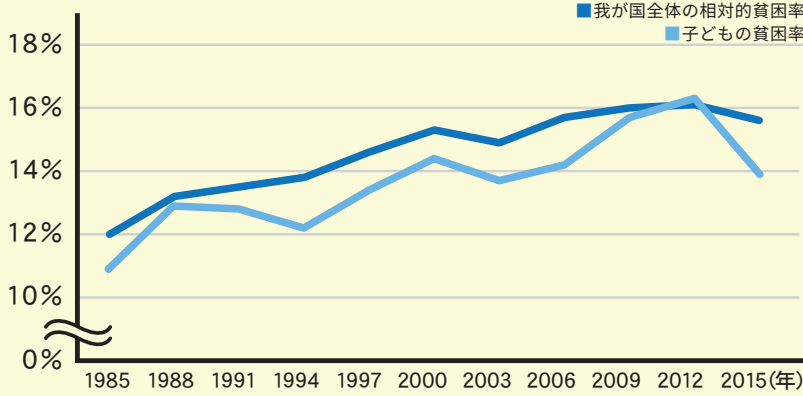


証券業界はSDGs推進に向けた取組みの一環として、 **こどものみらい古本募金**に参加しています！



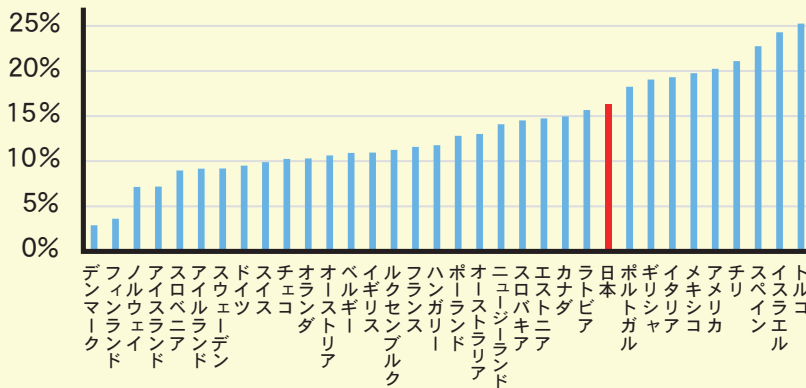
日本における子どもの貧困の現状

●日本の子ども(17歳以下)の相対的貧困率※は13.9%(約7人に1人)



出典:厚生労働省(2017)「平成28年国民生活基礎調査 結果の概況」

●他のOECD加盟国と比較しても高水準



出典:OECD(2014)Family database "Child poverty"

相対的貧困の子どもの生活実態(例)

- 満足な食事が摂れない
- 医療費を払う余裕がなく医療機関の受診を控えているために虫歯が多い
- 自宅に勉強をするスペースがない

⇒外からは貧困状態であることが分りにくい

※相対的貧困とは？

- ・ある国や地域の大多数よりも貧しく、周囲では当たり前前の生活ができない状態
 - ・OECDの基準では、等価可処分所得が全体の中央値の半分(=相対的貧困ライン)※を下回る状態
- ※日本の場合、122万円(2015年)

参考:絶対的貧困

必要最低限の生活水準を維持するための食糧・生活必需品を購入できる所得・消費水準に満たない状態。主に発展途上国を対象とする。

日本における子どもの貧困は見えにくい。ため、「この日本で子どもの貧困?」と見過ごされがちですが、日本においても、生まれ育った環境によって、教育の機会が得られない子どもたちや健やかな成長に必要な衣食住が確保されていない子どもたちが存在します。

子どもの貧困を放置するとどうなるの？

- 貧困が世代を超えて連鎖し、格差が固定化する「貧困の連鎖」によって、子どもの無限の可能性が失われます。
- 日本の未来を支える子どもが、支えられる側になり、人材減少、市場縮小、社会保障費増大など、「社会的な損失」につながります。

子どもの貧困問題への取組みは「未来への投資」と捉え、継続的に取り組む必要があります。機会の公正が不可欠である市場関係者として、証券業界は、今後も子どもの貧困問題の解決に向け取り組んで参ります。

「こどものみらい古本募金」について



「こどものみらい古本募金」は本を使った「子供の未来応援基金」への寄付の仕組みです。古本の買取金額が、「子供の未来応援基金」へ寄付され、「学びの機会」や「衣食住」が十分でない子ども達を支援しているNPO等への支援に繋がります。

※詳しくは「こどものみらい古本募金」HPをご覧ください。
<http://www.books-kodomonomirai.jp/>



証券業界は エスディージーズ SDGsを推進しています



SDGsについて

SDGsとはSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称であり、“誰一人取り残さない”世界の実現に向けて、国連が定めた2030年を期限とする17の目標と169のターゲットからなる国際目標です。あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処するために日本を始め先進国を含む全世界が取り組みを進めています。



SDGsの17の目標

証券業界におけるSDGsの推進

SDGs達成に向けた大きな課題の一つに、開発途上国の深刻な資金不足があります。民間資金の供給が必要不可欠であり、証券業が本業とする資金過不足の調整機能の発揮が期待されています。

証券業界におけるSDGs達成に向けた主な取り組み

証券業界では、「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」(座長：日本証券業協会会長／構成：証券会社代表者や有識者等)を設置し、以下のようなテーマに積極的に取り組んでいます。

貧困、飢餓をなくし 地球環境を守る

証券業を通じて社会的課題解決に貢献するため、インパクト・インベストメント関連の金融商品の組成・販売の促進。

具体的施策例

- ・証券会社社役職員向けの普及・啓発資料の作成

働き方改革そして 女性活躍支援

証券業界における働き方改革や女性活躍の推進を図る。

具体的施策例

- ・女性職員のネットワーク構築
- ・ベストプラクティス集の作成

社会的弱者への 教育支援

経済的に厳しい状況でも子供達が将来に希望を持って成長できるよう、証券業界として支援。

具体的施策例

- ・古本基金の実施
- ・NPOと証券会社のプラットフォームの構築

日本証券業協会では、これらのSDGs推進に関する明確なコミットメントを国内外に表明するため、2018年3月、「SDGs宣言」を公表しました。

